

## エコツーリズム戦略の策定について（案）

## 1. 背景

世界遺産推薦地 - I U C N技術評価書 知床（日本）

エコツーリズムは、推薦地に関して、正負両面の影響を及ぼす可能性を明らかに有している。地域内やその他の地域からの経験を蓄積し、エコツーリズム戦略を策定することが重要である。エコツーリズム戦略に含めることを検討すべき可能性のある要素としては、（ ）歩（登山）道の利用とその影響に関する既存の科学的調査に一部基づく歩（登山）道管理戦略、（ ）利用に関連する、公園内の異なる地域毎の許容変化限界指数の開発検討、（ ）利用レベルが高くなりすぎた場合は当該地方全体での利用管理戦略の推進、（ ）クマ - 人間の相互干渉の管理、などが挙げられる。

知床世界自然遺産地域の保全状況に関する調査報告書

## 3.4 エコツーリズムの管理

## （ 2 1 ）

観光は推薦物件で重要性が増している課題である。夏は観光利用のハイシーズンであるが、冬においても観光客数が増加し、それは特に海氷を見るためである。登録直後に観光客数が顕著に増加したのは、日本国内のメディアの注目や関心が増加したことを反映している。

## 勧告 1 4

遺産地域に関する、統合的なエコツーリズム戦略を出来る限り早急に策定すること。この戦略は、遺産地域の自然価値の保護、観光客の自然に基づく良質な体験の促進、地域経済の発展の促進を基本とすべき。

## （ 2 2 ）

登録以来、全般に観光計画と「適正な利用」に関する計画の重要性が増している。「適正な利用」は、「知床国立公園知床半島先端部地区利用適正化基本計画」に沿って進められてきた。この計画には、海鳥の個体数に与える影響を最小限にするための船舶の規制、登山道の維持・管理どの課題に関して、適切な利用と政策が定められている。調査団は、「適正な利用」とエコツーリズムに対する現在のアプローチを基とし、継続することが重要であると指摘する。

## 勧告 1 5

” 適正な利用 ” と ” エコツーリズム ” に関連した現在の活動を継続するとともに、統合的な方法でこれらの事項に取組むことを確保するため、包括的な一つのワーキンググループのもとに統合すること。

## （ 2 3 ）

遺産地域内でエコツーリズムは特に重要視されてきており、これは環境省、北海道、斜里町、羅臼町によって共同で支援されている「知床エコツーリズム推進事業」に導かれている。この事業の目的には、知床の自然特性に基づいた適切なエコツーリズム開発、地域経済の発展と多様化を支援するための手段としてエコツーリズムの利用が含まれている。特に、羅臼においては経済を多様化させる要素として観

光業の奨励に重点がおかれ、斜里においては、観光客の長期滞在の促進や、より幅の広い自然体験の提供による「より深い体験」に重点がおかれてきている。

#### ( 2 4 )

遺産地域の自然の価値に敏感でそれを保護するような地域のエコツーリズム産業の発展に重点が置かれている。活動は 5 つの特定の分野で実施されている。(1)知床世界遺産に特化したエコツーリズムガイドラインの開発、(2)漁業や農業のような地域産業と連携による、遺産地域の近辺(隣接地域)での「参加型」旅行プログラムの開発、(3)旅行代理店との協働や、多様な活動と利用機会に関する情報の提供による、長期滞在の奨励、(4)自然ガイドの技術や知識を向上させるための、ツアーガイドのトレーニング、(5)実用的なエコツーリズム調査の実施

#### ( 2 5 )

知床遺産地域内と隣接地域において、慎重で適切なエコツーリズムの発展を調査団は推奨する。そのようなエコツーリズムが地域経済発展の多様化と強化に寄与する可能性があるとして調査団は考える。そのような発展の基礎となるのは自然特性と価値の維持であり、それゆえに、そのような価値は守られ強化されなければならない。

#### 勧告 1 6

知床のエコツーリズム戦略と、知床内の観光と経済的開発の地域戦略との間に密接に連携・統合を確保すること。

### 2 . 策定の目的

適正な利用の推進により、多様な野生生物を含む原生的な自然環境を後世に引き継いでいく。

エコツーリズムの推進により、利用者により良い自然体験を提供する。

エコツーリズムの推進により、地域経済の発展を促進する。

### 3 . 戦略に盛り込むべき事項

#### 戦略の背景・目的

知床世界自然遺産地域および隣接地域における適正な利用およびエコツーリズムの推進のための基本方針

遺産地域の未来像・将来目標

遺産地域の地域区分

遺産地域の自然価値の保護に関する事項

観光客の自然に基づく良質な体験の促進に関する事項

地域経済の発展の促進に関する事項

遺産地域の適正利用・エコツーリズムの推進に関する各主体の役割及び実施すべき事項

知床世界自然遺産地域内共通の利用の心得(ルール・マナー)に関する事項

#### 個別地域毎の取り扱い方針

個別会合および既存協議会における検討成果を反映

将来目標、推奨する利用形態、環境収容力、施設整備、守るべきルール、利用・アクセスのコントロール

将来目標に向け、各主体が実施すべき事項

周辺地域も含めた利用の分散、新しい利用拠点・利用プログラムの検討

#### 4．戦略の策定に係るワークショップの開催

戦略の策定にあたり多様な地域の意見を反映させるため、適正利用・エコツーリズム検討会議の個別会合としてワークショップを開催する。ワークショップは参加を希望する地域の関係者を対象とし、検討会議構成員以外の参加も可能とする。適正利用・エコツーリズムWG委員は可能な範囲でご参加いただくこととする。ワークショップは、所属団体等に関わらず個人の自由な意見を集約することを目的とし、ワークショップでの議論を基に事務局において戦略の原案の作成を行う。事務局原案をもとに全体会合においてさらに議論を実施し、最終的な戦略の策定は全体会合において行う。

#### 5．関連する既存の計画等

知床国立公園適正利用基本構想（平成14年3月）

知床半島中央部地区利用適正化基本計画（平成17年9月）

知床半島先端部地区利用適正化基本計画（平成16年12月）

知床半島中央部地区利用の心得（平成21年1月）

知床半島先端部地区利用の心得（平成20年1月）

知床エコツーリズムガイドライン（平成19年3月）

知床エコツーリズム推進実施計画（平成19年3月）